

米H.B.フーラー（ミネソタ州）と積水化学工業の合併会社である積水フーラー（東京都港区）は、2025年に設立20周年を迎える。住宅向け接着剤や紙おむつ向けのホットメルト接着剤を手がけ、近年では自動車分野での事業展開も著しい。節目の年を迎えるに際して、スコット・パーガンディー社長と早崎達夫副社長に、両親会社のリソースを活用できる強み、今後の発展に向けて見込むシナジーなどについて聞いた。

積水フーラー 25年に設立20周年

両親会社との協業深化



早崎副社長



パーガンディー社長

◆…両親会社との協業体制について教えてください。
パーガンディー 2 つの強力な親会社を持っているというのはわれわれのアドバンテージだ。H.B.フーラーのイノベ

ーションや技術を日本市場に導入することができている。例えば、バッテリーの発火を防ぐ保護材料「EV Protector 4006SFR」だ。米国で開発された製品を国内で提案し、好評を博

手掛けており、販売チャネルも豊富だ。それを活用することができの有利点の一つだ。積水化学は社員教育でも先進的なシステムを持っている。われわれもそれを利用させてもらい、良い刺激を

にいては得ることができる。◆…課題はどういった部分ですか。
パーガンディー どの会社にも共通する課題だが、臨機応変な開発を行っていくためにはなら

◆…設立20周年を迎えるにあたり、今後に向けた展望を。
パーガンディー 過去数年は、自動車をはじめ新たな領域に切り込んでいくことができた。さまざまな変化が急速に進む時代だ。両親会社へのアプローチを活性化させ、フレキシブルに対応していきたい。

◆…早崎 積水化学、H.B.フーラー、積水フーラーの3社での共同開発はこれまでにないため、今後仕掛けていきたい。（聞き手＝佐藤圭吾）

変化とらえ開発に生かす

している。

早崎 技術面はもちろんだが、積水化学からは特に日本におけるビジネスの進め方を学んでいる。具体的には、販路の拡大や展開の仕方などについてだ。彼らは国内で自動車関連の製品を多く

◆…人材の交流はいかがですか。
パーガンディー H.B.フーラーの米国拠点に社員を1年間派遣し、技術研修を受けてもらっている。技術を学ぶだけにとどまらず、日本

能プラスチックカンパニー開発研究所（大阪府島本町）にも社員を派遣し、コロナ禍前から共同開発を行っている。H.B.フーラーとの共同研究はコロナ禍の影響もあり滞っている面があるが、今後は積極的にやっていく

ニクス、モビリティといった分野では、日夜目まぐるしい変化が起こっている。変化をとらえるために、いかに早く将来を予測し、開発に生かすかという部分が重要だ。

早崎 規模の大きい会社ではないため、知名度

化学工業日報

積水フーラー、25年に20周年 親会社と協業深化

2024年7月24日 佐藤圭吾

粘・接着剤



パーギャンディー社長

米H. B. フーラー（ミネソタ州）と積水化学工業の合併会社である積水フーラー（東京都港区）は、2025年に設立20周年を迎える。住宅向け接着剤や紙おむつ向けのホットメルト接着剤を手がけ、近年では自動車分野での事業展開も著しい。節目の年を迎えるに際して、スコット・パーギャンディー社長と早崎達夫副社長に、両親会社のリソースを活用できる強み、今後の発展に向けて見込むシナジーなどについて聞いた。

◆...両親会社との協力体制について教えてください。

パーギャンディー 2つの強力な親会社を持っているというのはわれわれのアドバンテージだ。H. B. フーラーのイノベーションや技術を日本市場に導入することができている。例えば、バッテリーの発火を防ぐ保護材料「EV Protect 4006SFR」だ。米国で開発された製品を国内で提案し、好評を博している。

早崎 技術面はもちろんだが、積水化学からは特に日本におけるビジネスの進め方を学んでいる。具体的には、販路の拡大や展開の仕方などについてだ。彼らは国内で自動車関連の製品を多く手掛けており、販売チャンネルも豊富だ。それを活用することができるのも利点の一つだ。積水化学は社員教育でも先進的なシステムを持っている。われわれもそれを利用させてもらい、良い刺激を得ている。

◆...人材の交流はいかがですか。

パーギャンディー H. B. フーラーの米国拠点に社員を1年間派遣し、技術研修を受けてもらっている。技術を学ぶだけにとどまらず、日本にいては得ることができない米国の考え方、物の見方に触れられる。そういったチャンスがあるということは、社員にとってもメリットが大きいと考えている。



早崎副社長

早崎 積水化学の高機能プラスチックカンパニー開発研究所（大阪府島本町）にも社員を派遣し、コロナ禍前から共同開発を行っている。H. B. フーラーとの共同研究はコロナ禍の影響もあり滞っている面があるが、今後は積極的に行っていきたい。

◆...課題はどういった部分ですか。

パーギャンディー どの会社にも共通する課題だが、臨機応変な開発を行っていかなければならない。とくにエレクトロニクス、モビリティといった分野では、日夜目まぐるしい変化が起こっている。変化をとらえるために、いかに早く将来を予測し、開発に生かすかという部分が重要だ。

早崎 規模の大きい会社ではないため、知名度には課題を感じている。さまざまな機会を利用し、PR活動を強化していきたい。

◆...設立20周年を迎えるにあたり、今後に向けた展望を。

パーガンディー 過去数年は、自動車をはじめ新たな領域に切り込んでいくことができた。さまざまな変化が急速に進む時代だ。両親会社へのアプローチを活性化させ、フレキシブルに対応していきたい。

早崎 積水化学、H. B. フーラー、積水フーラーの3社での共同開発はこれまでにないため、今後仕掛けていきたい。（聞き手＝佐藤圭吾）

Copyright© 2024 The Chemical Daily Co., Ltd.